

10 《田園の合奏》は誰の作品か。

真鍋友範

2019

その作者がジョルジョーネなのか、あるいはティツィアーノなのかについて意見の分かれている《田園の合奏》。《嵐》・《聖愛と俗愛》との表現比較から得られる作者はジョルジョーネなのだ。

~~~~~



図版 1

《田園の合奏》1509年頃 ティツィアーノ あるいは ジョルジョーネ  
ルーブル美術館

ジョルジョーネの作品《嵐》については、ジョルジョーネであることが明確だ。残念ながら今回取り上げる《田園の合奏》は、ジョルジョーネなのか、あるいはティツィアーノなのかを巡って論争され、現在ではティツィアーノという結論でルーブル美術館に展示されている。

しかし、根拠を挙げながら反論を試みたい。

### 根拠 1

本作品の制作年が1509年頃であるなら、1510年のジョルジョーネのペストによる感染死の直前には未だ健康であったジョルジョーネ自身が描きうる時間的可能性が充分にあったと推測できるだろう。

ただし、赤い衣服の男の右側にいる【緑の衣服の男】は彩色が未完成にも感じられる。ジョルジョーネの突然の死の結果そうなったのかは不明だ。

仮にジョルジョーネの突然の死の結果この部分が未完成となったのなら、ティツィアーノなど周囲の弟子が加筆することなく完成作として施主に引渡されたことになる。つまりジョルジョーネ作である可能性は高いのだ。しかし、ジョルジョーネがあえてこの部分の色彩を淡く描いた可能性は残る。



図版 2

\* ブルーの囲みラインの中の男は、やや彩色が薄く未完成のようだ。

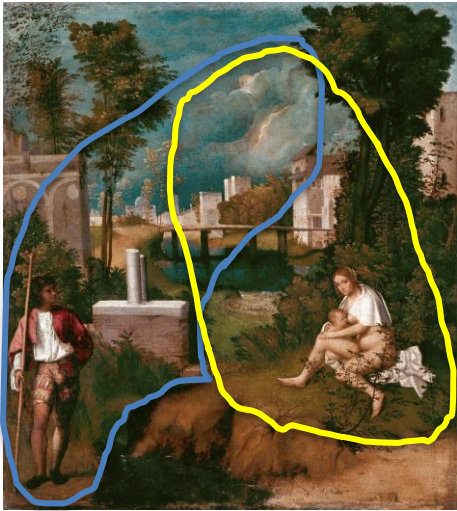
## 根拠 2

本作品には《嵐》と共通する表現がある。特に《画面合成技法》と《偶像的人物表現》が共通する点だ。

私は、2018年に、《嵐》が【家族愛を根底とする愛と不安の心理】<sup>1</sup>を描いた叙情詩的物語絵画であり、遠く離れた2地点を同時に描いた《合成画面》であるという結論に到達している。

---

<sup>1</sup> ネット論文《ラ・テンペスタは何を描いた絵画なのか 2018》参照

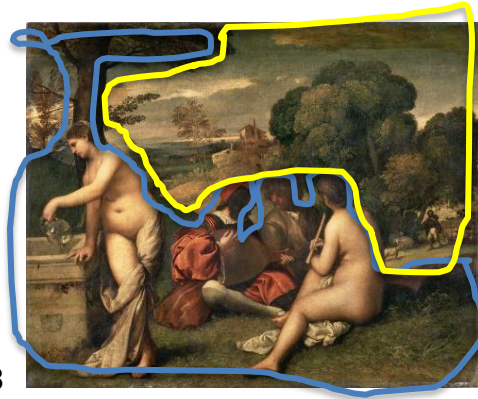


図版 3

《嵐》 1506-08

アカデミア美術館

- \* ブルーラインは男と嵐の空の空間
- \* イエローラインは女と嵐の空の空間
- \* 両者は嵐でつながった別空間



図版 4

《田園の合奏》 1509頃

ルーブル美術館

- \* ブルーラインは天上界
- \* イエローラインは地上界
- \* 両者は音楽でつながった別空間

ここでの結論の根拠の一つは、当時描かれた【裸婦とはヴィーナスである】というもの、もう一つは、【暗いぼかし表現の男の顔は既に亡くなっている人物を表現している】というものだった。つまり描かれている対象はすべてこの世の人物ではないという前提で《嵐》は描かれている。

このとき、男の生死の判断材料となったのは、男の顔の表現であった。気付いていただきたいのは、《田園の合奏》の中央に座る赤い服に赤い帽子姿の楽器を演奏しようとする人物は、陽光のもとに表現されながら、なぜか頭部だけ暗い。顔も暗く不鮮明だ。この表現は《嵐》の中の男と共通する表現だ。つまり、描かれている内容は、生きた男たちが裸の女と合奏している現実の情景ではなく、亡くなった男（たち）＝偶像と天上のヴィーナス＝偶像が合奏する架空の場面なのだ。

### 根拠 3

《嵐》と《田園の合奏》は、双方共に【画面合成技法】<sup>2</sup>で描かれている。

《嵐》は、数キロあるいは数十キロ以上離れた人物同士が天空の稲妻を介在

<sup>2</sup> 《ラ・テンペスタは何を描いた絵画なのか 2018》参照

して結びついている。

《田園の合奏》では、楽器を演奏する今は亡き男たちと天上界のヴィーナスが対等の立場で楽しく楽器を演奏している。

《田園の合奏》の右側に小さく描かれた弦楽器を演奏する人物の下側の、【断層のように感じられる部分】に注目いただきたい。本来なら、前景から中景遠景へと自然に変わっていく表現が普通なのだが、違和感ある不釣り合いな表現なのだ。(緑の円部分)

優れた画面合成技法を身につけていたジョルジョーネは、意図的に、前景と遠景を分離させている。

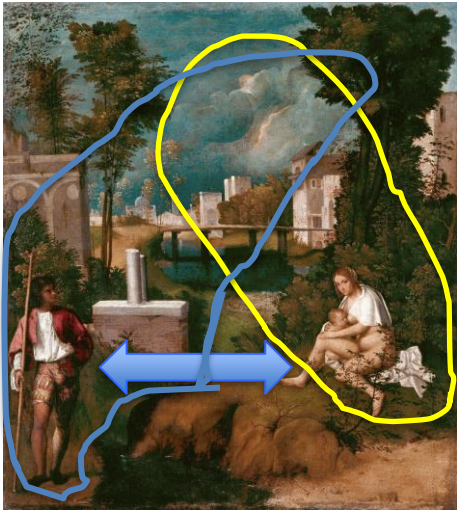
【前景の左側の樹木】も、遠近法に準じるなら、もう少し明るく明確な色彩になるのに、ここでは異様に暗い色彩なのだ。(赤の円部分)

従って、《田園の合奏》の場面の前景部分は、背景にみる地上における叙情的風景とは一線を画さなければならない。(図版参照)



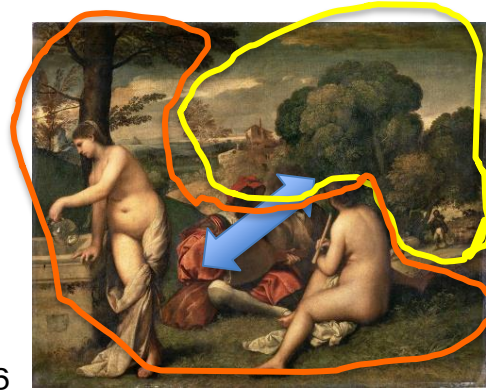
図版 5

- \* 緑の円は断層のように見える部分。前景と背景のつながりが無い部分。
- \* 赤の円の樹木は前景であるにも関わらず、光が少なく暗くて不自然な樹木。



図版 6

- \* ブルーの両矢サインは両者が数キロ以上離れている事を示す。



図版 7

- \* ブルーの両矢サインは両者が天空界と地上界に分かれている事を示す。

あくまで前景は天上界、背景は地上界なのだ。

注目に値する部分は、画面右側の遠景の音楽を演奏する牧童らしき人物の前の分断された地表の表現だ。【通常なら画家は前景と背景との一体化して表現する筈の部分なのだが、明らかに分断した表現であり、画家の表現意図を推測できる部分でもあるのだ。(図版7参照)

また前景左のヴィーナス後ろの樹木の色にも注目する必要がある。

通常の【遠近法】では、背景の樹木より、より近くに存在する為により明るく、鮮明に表現されるべき部分であるのに、光が弱く暗い表現だ。つまりこの樹木と背景の樹木は、遠近法に照らし合わせてみると明らかに断絶した表現なのだ。(図版7参照)

そこでこの前景と背景は明らかに意図された二つの場面が合成されていると判断できる。

《嵐》と《田園の合奏》は両者共に【画面合成による構成手法】である点がそっくりなのだ。従って技法が同じ【画面合成技法】であることから、同一人物による画面手法である可能性は大きい。

#### 根拠 4

《嵐》や《田園の合奏》のヴィーナスと《田園の合奏》のヴィーナスの表現を比較したい。少なくとも布(シーツ)の扱いに近似性が認められる。(図版8.)

9. 10参照)

両者に共通する特徴とは、何だろう。

《嵐》の母子ヴィーナスでは、一枚の白い布が座像のヴィーナスの左肩から始まり、ヴィーナスの右腕に沿って腰下側に展開している。その形状は無造作だ。

《田園の合奏》の右側座像のヴィーナスでは、布がヴィーナス右足太もも部分から始まり、左足太もも下に展開している。その形状は同様に無造作だ。

しかし、これらをティツィアーノの描いた《聖愛と俗愛》(図版8)のヴィーナスの布と比べると、ティツィアーノの方が赤と白の2種の布を使っており、俗愛の偶像である婦人と対比させた、【作為的な布の扱い】な。従ってジョのだ。

結論として、ジョーネとティツィアーノではヴィーナスの布の表現に違いが見られる。(図版参照)



図版 8



図版 9



図版 10

- \* 《聖愛と俗愛》での聖愛のヴィーナスの衣は、赤と白の凝った色使い。
- \* 対して《嵐》と《田園の合奏》のヴィーナスの衣は、共通して白い布で凝った表現ではない。

もう一点、《田園の合奏》と《聖愛と俗愛》には大きい表現の違いが認められる。《田園の合奏》では地上界と天上界が明確に区別されて描かれているが、《聖愛と俗愛》では、地上の人物とヴィーナスが、天上界と地上界を区別されず同じ空間に並んで表現されている。

さらにもう一点、背景の風景に異なった季節を表現している《聖愛と俗愛》は、単一の季節を描いた《田園の合奏》と異なっている。

つまり、《田園の合奏》と《聖愛と俗愛》では、作風（＝表現スタイル）が大きく異なるのだ。

《嵐》と《田園の合奏》がジョルジョーネの共通性を含有し、一方で表現手法の異なる《聖愛と俗愛》がジョルジョーネ 亡き後のティツィアーノ作品と分類できるなら、《田園の合奏》はジョルジョーネ作品という結論になる。

#### 根拠5

ルネサンス時代に画家が貴族や上流階級の人から絵画の依頼がある場合、寄進目的の宗教画依頼以外では、家族史の節目の慶弔時における贈り物や、弔いの為の記念画であったりするケースがあった。

《嵐》や《カステルフランコ祭壇画》などが弔いの意味で描かれたのであれば、同じく黒い顔で表現された《田園の合奏》の中の男は、亡くなった人物であり、しかも生前に音楽を愛好した人物ということになる。

あえて分類するなら、《田園の合奏》は【生前に音楽を愛好した人物への追悼記念画】である可能性が強い。恐らくこの作品をジョルジョーネに注文した人物は、天上界で音楽を楽しむ亡き人物を追想することとなり、さぞかし喜んだであろうと類推される。



図版 1 1



図版 1 2

- \* 双方の暗くてぼかされた男の顔は、同様に既に亡くなっている人物を暗示している。つまり、ヴィーナス同様に天上界の人物の偶像であることを暗示している。

#### 根拠6

《嵐》と《田園の合奏》その両者に共通するのは【音】だ。

《嵐》では、迫りくる雷雲の中で光った瞬間発せられる【雷鳴】が聞こえる。一方の《田園の合奏》では、背景の牧童の発するバイオリンらしき楽器からの音楽が聞こえている。

ジョルジョーネ自身が音楽への興味関心のあった人物なら、【音】への関心を示すテーマの絵画があっても変ではない。

《嵐》、《田園の合奏》の両者には共通して【音】への関心が強く感じ取れるのだ。



図版 1 3



図版 1 4

- \* オレンジの円は稲妻の音の発生源
- \* オレンジの円は弦楽器の音の発生源
- \* 両者の共通点は、作者【音】への強いこだわりがある。

## 根拠 7

《嵐》、《田園の合奏》両者は共にストーリーが存在する物語画であり、風景画ではない。

ストーリーが読み取れない場合には、風景画になってしまう点も双方共通なのだ。

《嵐》のストーリーは、以下だ。

この絵画をこの男の視点から眺めると、内容は次の叙情詩的物語画となる。

折れて壊れた二本の白い丸柱や折れた槍が戦火による破壊あるいは死を象徴しているこの場所に、故郷を遠く離れて一人佇む、亡くなる運命の男は、空を見上げながら故郷の町に住む妻子を思い起こし不安感を募らせている。妻子の住む故郷の街の上空には、平和の静けさをうち破るかのように、嵐のはじまりを告げる稲妻が象徴する戦火の危機が目前に迫っている。

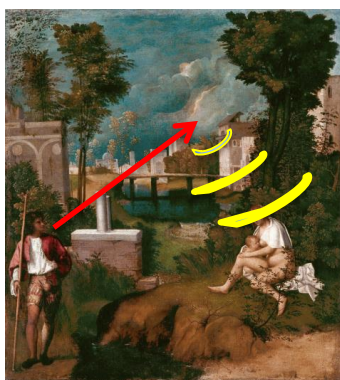
ヴィーナスとして表現された妻からは次のストーリーとなる。



嵐（稲妻）によって象徴される、戦火迫る危機状況が、死が目前に忍び寄るこの若い男の故郷の街に住む妻子に迫っている。世俗の姿ではなく、純愛を象徴する天上人（ヴィーナス）の姿で表現され、戦乱で亡くなる運命にある妻は、【稲妻の音】を聞きながら遠方の夫の身を案じ不安感を募らせている。

《田園の合奏》のストーリーは、以下だ。

前景の天上界にいるメンバー達は未だ演奏をはじめていないが、背景の地上の牧童はバイオリンか何かの楽器から音楽を奏でている。その【音】は田園地帯を経て天上界にも響いている。それに呼応するかのように、赤い衣服の男（故人）は《我々も演奏しよう》という意味の右手の仕草で合奏をヴィーナスも加わった周囲に対して呼びかけている。



図版 1 5



図版 1 6

- \* 男は稲妻を直接見ている。\* 地上界の男は既に音楽を奏でている。  
女は稲妻の音を聞いている。 天上界の男は右手の身体動作で『演奏しよう』と呼びかける。
- \* ブルーの円は、今は亡き主役である人物の、右手で【自分自身】を示す仕草。
- \* 双方ともに叙情的物語画である点が共通だ。

## 結論

《嵐》と《田園の合奏》に見られる根拠1から根拠7の理由により、《嵐》を稲妻の【音】を題材とするジョルジョーネの叙情詩的物語画とするなら、《田園の合奏》は、同じく【音】＝【音楽】を題材とするジョルジョーネの叙情詩的物語画なのだ。

ティツィアーノ作品とされる《聖愛と俗愛》は、天上界と地上界を区別する《田園の合奏》のジョルジョーネ特有の作風と大きく異なっているのだ。

《田園の合奏》は、地上界での合奏風景ではなく、地上界の音楽に鼓舞され

て天上界の人が合奏を始めようとする場面を描いている。むしろ、《地上界と天上界による合奏》の方が、内容を正確に伝える題名かもしれない。当然のこととして、背景が田園であってもこの絵画作品のテーマは、田園の風景ではないのだ。

結論として、《田園の合奏》は、ティツィアーノ作品ではなく、真正のジョルジョーネ作品として分類するのが正しいのだろう。